

校内授業研究会

《算数科・図画工作科・国語科書写》

7月5日（月）に国語科書写の共同研究者の住川先生と附属中学校の先生方、2名の校外からの参観者を迎え、校内授業研究会を行いました。

今回は、普段の授業の中に効果的なICT機器の活用を位置づけました。3授業ともにそれぞれの教科・領域の特性に合わせた実践が行われ、参観された他校の先生方から、とても参考になったという声が聞かれました。

《算数科》

1年生の算数科では、「かずしらべ」の学習をしました。ばらばらに描かれている果物の中でどれがいちばん多いか調べる問題で、「ばらくちゃで分からない。」と子供たちから問いが生まれました。そこから、「果物の絵を並べたい。」「一列にするといい。」「大きさを揃えないといけない。」と解決の見通しを持ったり主体的に解決しようとしたりする姿がありました。本時の活動では、子供たち一人一人がタブレット端末のアプリを使用し、簡単な絵グラフを作成しました。また、作った絵グラフを共有し、どう表すと分かりやすいのか絵グラフにするとどんなことが分かるのか話し合いました。

活動を通して、絵グラフの良さや整理の仕方について理解を深めることができました。



《図画工作科》

2年生の図画工作科では、「いろの見えかたむげん大」の学習をしました。透明色紙を並べたり、重ねたりしながらいろいろな色や形を見つけていきました。出来上がった作品は、タブレットを使って写真に記録し、次々と作り替えて作品を鑑賞しました。

タブレットを活用すると、作りながら自分の作品を客観的に見ることができ、作り替えたものを比較することができました。

撮影した写真をもとに鑑賞し、気付いたことを話し合いました。

図画工作科では完成した作品を記録するだけでなく、制作過程で試行錯誤したり、比較したりする手立てとしてタブレットを活用しようと考えています。子供たちが意欲的に楽しく取り組めるように、また、作品とじっくり向き合える時間になるようにしていきたいと思います。



《国語科書写》

3年生の毛筆書写では、「折れ」の学習をしました。

「折れ」を書くときの運筆を効果的に理解させるために、動画を用いて視覚的に捉えるようにしました。始筆から送筆、終筆における一連の動作や穂先の通るところなどを、実際の書字場面を見ながら理解し、確認することで、自分の書字動作に生かされるようにしたいと考えました。また、まとめ書きの比較・共有や話合いの場面で、自分や友達のまとめ書きを教材の文字や前時に書いた自分の文字と比較し、拡大し細部まで見ることで、筆の向きや「折れ」の部分など、見付けた良さに焦点を当てることができました。

今後は、タブレット端末を活用することが効果的な場面の精査や、自らの書字動作や書く姿勢の確認など、より有効に活用できるよう取り組んでいきたいと感じました。

